

第3回(平成20年度)IODP部会・執行部会 議事録(案)

日時: 2008年7月9日(水) 14:30~17:30

場所: JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者(敬称略)

執行部: 川幡穂高(東京大学) 阿波根直一(北海道大学) 池原 実(高知大学海洋コア総合研究センター)
井上麻夕里(東京大学海洋研究所) 小平秀一(海洋研究開発機構) 松本 剛(琉球大学)
山崎俊嗣(産業技術総合研究所) 山田泰広(京都大学) 山本啓之(海洋研究開発機構)

オブザーバー: 巽 好幸(海洋研究開発機構)

文部科学省海洋地球課 : 戸谷洋子 笹山岳大

海洋研究開発機構 国際課 : 花田晶公 肥田慎司

海洋研究開発機構 CDEX : 川村善久

事務局: 中山敦志 加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

欠席者(敬称略)

執行部: 荒井晃作(産業技術総合研究所) 安間 了(筑波大学) 北村晃寿(静岡大学)
坂本竜彦(海洋研究開発機構) 高澤栄一(新潟大学) 日野亮太(東北大学)

議事次第

--- ※ 会議前に事前に Mail にて報告した事項 ---

報告事項

- 乗船研究関連報告〔阿波根部会長補佐〕
 - ・Great Barrier Reef 公募 [資料 1-1]
 - ・Pacific Equatorial Age Transect 追加公募 [資料 1-2] [資料 1-3]
- 平成20年度上半期会員提案型活動経費募集結果報告〔事務局, 山崎委員(選考委員長)〕 [資料 2]
- J-DESC コアスクール準備状況報告〔山田委員, 山崎委員, 事務局〕 ※
 - ・ロギング基礎コース [資料 3-1(1)~(3)]
 - ・古地磁気コース [資料 3-2(1)~(2)]
 - ・微化石コース [資料 3-3(1)~(2)]
- 専門部会活動報告
 - ・掘削研究専門部会〔山本委員, 事務局〕 [資料 4-1]
 - ・科学計測専門部会: Scientific Technology Roadmap の背景と状況について〔池原委員(STP 委員)〕 [資料 4-2]
- 普及広報関連報告〔事務局〕 ※
 - ・JPGU タウンホールミーティング
 - ・第20回 IODP 普及キャンペーン at 広島 開催報告
- IODP 関連会合 in 6月北京報告
第6回 IODP Council 及び NSF-MEXT 会合報告
 - ・#6 SASEC 会議 (08/06/23-24:北京) 報告〔川幡部会長(SASEC 委員), 巽オブザーバー〕 [資料 5]

検討事項

- IODP Big Meeting に向けて
 - ・Big Meeting に向けた戦略について
 - ・Domestic WS 開催検討 [資料 6-1]
 - 分野, 参加者 [資料 6-2]
 - スケジュール, 予算 等
- J-DESC コアスクール関連検討事項
 - ・コアスクール保険 [資料 7]
 - ・ちきゅうでのコアスクール開催 [資料 8-1]
 - [資料 8-2]
- 秋の南海掘削シンポジウム開催について [資料 9]
- その他
 - ・SPC 代理委員承認
 - ・出張時の航空マイレージについて
 - ・次回執行部会日程 等

[参考資料]

議事録（案）

報告事項

1. 乗船研究関連報告〔阿波根部会長補佐〕

資料 1-1, 1-2, 1-3 に基づき、阿波根部会長補佐より乗船研究関連について報告がなされた。

・Great Barrier Reef 公募 [資料 1-1]

- ESO が 2009 年 8 月～12 月に実施予定の航海である
- 乗船研究者の募集が現在行われており、締切りが 8 月 15 日、J-DESC から ESO に対するノミネーションが 9 月 17 日まで
- Co-chief は東京大学の横山祐典氏とオーストラリアの Jody Webster 氏

・Pacific Equatorial Age Transect 追加公募 [資料 1-2] [資料 1-3]

- 研究航海の延期によって Invite されていた 2 名が辞退した
- 2 名の辞退に伴い、北海道大学の中村英人氏、JAMSTEC の黒田潤一郎氏が追加応募
- 2 名とも荒井氏、小平氏、西氏に応募書類を確認いただいた後、USIO へ推薦した
- 日本からは、Exp. 320 が 7 名、Exp. 321 が 9 名のサイエンスパーティーでのぞむ
- 資料 1-3 については暫定的なものであり、8 月下旬くらいにはより詳しい日程が明らかになるだろう

引き続き CDEX 川村氏より「ちきゅう」の今後の航海スケジュールについて説明がなされた。

- Exp. 319 (3/1～6/17 予定) で Riser 掘削を行う。遅くとも今月 (7 月) 末には Call をかける予定
- Exp. 319 後は 2 つの航海を予定
- 一つは Riserless で掘削し、ケーシングパイプを挿入するのみで、コアは採らない
- もう一つは Input sites で、Co-chief は変わらず、IFREE 斎藤実篤氏と Mike Underwood 氏の予定

2. 平成 20 年度上半期会員提案型活動経費募集結果報告〔事務局、山崎委員(選考委員長)〕 [資料 2]

事務局および山崎委員より、資料 2 に基づき、標記の件について説明がなされた。

- 現在は審査の最終確認中
- 各審査員の評価はポジティブであり、今回の申請 (1 件) は申請額 100% で採択される方向である
- 地方の審査委員からは地方学生への何かしらの配慮も考えていただきたいとのコメントが寄せられている

3. J-DESC コアスクール準備状況報告〔山田委員、山崎委員、事務局〕※

・ロギング基礎コース [資料 3-1(1)～(3)]

資料 3-1 に基づき、ロギング基礎コースについて山田委員より説明がなされた。

- もう少し会員機関が増えれば講師旅費も出せるように考えたい (川幡)
- 本件について開催のための予算案は承認された

・古地磁気コース [資料 3-2(1)～(2)]

資料 3-2 に基づき、古地磁気コースについて山崎委員より説明がなされた

- 締切りまでに 7 名の応募があったが、現在追加募集中
- 参加者にかかるお金は参加費でまかなう。講師旅費は高知大学の小玉氏の予算から支出していただける。それ以外の消耗品などについては J-DESC に負担をお願いしたい
- 本件について開催のための予算案は承認された

・微化石コース [資料 3-3(1)～(2)]

資料 3-3 に基づき、微化石コースについて事務局より説明がなされた

- 9 月地質学会後に秋田大学で開催
- チューターとして院生を雇用するお金は AESTO より支出する
- 本件について開催のための予算案は承認された

4. 専門部会活動報告

・掘削研究専門部会〔山本委員、事務局〕[資料 4-1]

資料 4-1 に基づき、掘削研究専門部会の活動について山本委員より報告がなされた。

- J-DESC と IFREE の連携による構造探査について、Ontong Java Plateau を来年度の JAMSTEC 公募航海に提案することを確認した
- IODP 掘削プロポーザル支援課題で関東アスペリティ・プロジェクトについて審査を行い、審査結果とともにコメントを送付することを専門部会として合意した
- プロポーザル支援は 7 月 18 日に小泉委員会で最終審査を受ける予定
- 掘削プロポーザルの育成策の一つとして、J-DESC 事務局に窓口をおき、質問などを受け付けるという意見が出た。その一方で提案内容の守秘義務の問題についての意見もあった

- 学部生や修士院生などの段階で掘削プロポーザルの作成を訓練するためのコアスクールを提案する事を専門部会として合意した
- これに関しては、座って話を聞いているだけではなく、手を動かして何かをつくりあげるといようなスクールがあっても良い(山本)
- ニューイヤースクールを利用してもらうのも良いかもしれない(井上)

・科学計測専門部会: Scientific Technology Roadmap の背景と状況について〔池原委員(STP 委員)〕 [資料 4-2]
資料 4-2 に基づき、池原委員より科学計測専門部会の活動などについて報告がなされた。

- 7 月下旬に開催される STP に向けての検討事項を議論した
- 技術開発推進専門部会と STP および EDP で検討されている、中・長期的なロードマップ策定 (Technology Roadmap, Scientific Roadmap) に向けて協力すること、および MWJ の分析・計測機器類に関する情報収集や科学支援員への育成に協力する事について専門部会として合意した
- 専門部会長の斎藤実篤氏が退任した
- 次期専門部会長に石橋純一郎氏を指名、新専門部会委員として横浜国立大の河潟俊吾氏を推薦した

5. 普及広報関連報告〔事務局〕※

・JPGU タウンホールミーティング

事務局より標記の件について報告がなされた。

- 87 名の参加者が得られた
- 次回 Scientific Drilling 誌に報告の記事が掲載される予定
- 陸上掘削部会と合意していたにもかかわらず、開催後に陸上掘削部会の委員からアルコールの提供について懸念する意見もあった(今後このような事後の行き違いが発生しないよう、委員には出席率を上げていただくよう要請する)
- JPGU のタウンホールミーティングでも IODP-MI から資金提供を受けることができるかもしれない
- 今後もタウンホールミーティングでアルコールを提供することとその方法を検討する事、およびポスター発表のコアタイムと時間が重なっていた件については、次回以降考慮に入れることを第 4 期執行部への申し送り事項とすることが合意された
- 時間が重なっている件については、コアタイムの時間を昼にずらすなどが考えられるが、浸透するまでに時間がかかる

・第 20 回 IODP 普及キャンペーン at 広島 開催報告

事務局より標記の件について報告がなされた

- 7 月 4 日、5 日に広島大学と広島市の科学館にて開催された
- 広島大学は約 70 名、科学館は約 40 名の参加者があった
- 次回は産総研で 7 月 26 日、筑波大学で 9 月 5 日に開催する予定
- 産総研の地質標本館で約 2 ヶ月間関連展示を行う
- 愛媛大学は来年度の 8 月に大学博物館の開館に合わせて開催することが合意された
- 愛媛大学の代替の今年度開催地を事務局にて検討する

6. IODP 関連会合 in 6 月北京報告

・第 6 回 IODP Council 及び NSF-MEXT 会合報告〔宿利企画官〕

MEXT 笹山氏より標記の件について説明がなされた

- IODP Council 及び NSF-MEXT 会合において 2013 年以降に向けた計画の更新について検討が開始された
- 今後のスケジュールとしては、Lead Agency からそれぞれの参加国に 2013 年以降の課題、計画参加、手続きなどについての質問状を送付し、今年 9 月に開催される NSF-MEXT 会合や来年 1 月 SASEC に合わせて開催される臨時 Council でさらに話し合われる予定

・#6 SASEC 会議 (08/06/23-24:北京) 報告〔川幡部会長(SASEC 委員), 巽オブザーバー〕[資料 5]

資料 5 に基づき、SASEC 会議について川幡部会長より報告がなされた。

- 6 月 23 日～24 日に北京にて開催
- Annual Program Plan、および予算案は#6SASEC 会議では承認されなかった
- Talwani 代表や USIO は、産業界との連携による外部資金の取り入れを検討している
- TAMU では IODP 関連スタッフの大幅な縮小を検討している
- 新規プロポーザルについて、今後も受け付けることが確認された
- 2013 年以降の掘削計画更新に向けて来年 9 月 22 日～24 日(候補)にプレーメンでシンポジウムを開催することが決定された
- 日本からは、多田氏と稲垣氏がその Steering Committee の委員となっている

・BoG について

引き続き、巽氏より IODP-MI BoG について報告がなされた

- BoG でも 2013 年以降の組織体制のつくり方について議論があった
- 今後の議論を進めていく上では Community からの意見が必要である

検討事項

8. IODP Big Meeting に向けて

- Big Meeting に向けた戦略について
- Domestic WS 開催検討 [資料 6-1] [資料 6-2]
標記の件について議論がなされた

- Big meeting に向けて 2013 年以降日本がよりプレゼンスを示すために意見を集約する必要がある
- そのために、いくつかの分野に分けてミーティングを開催する
- 世話人は事務局を通じて公募をするとともに、執行部の委員が中心となって行う
- 参加者 120 名を想定。その一部は「ちきゅう」船上、それ以外では東京近郊で開催する。予算については規模などによっても変わるため今後検討。
- 資料 6-2 は現在の国内・国際委員、国内委員経験者、SAS 委員経験者、301~316 の乗船者を含む。2013 年以降を考慮し、57 歳以下と以上で分けている。全部で 250 人くらい
- 技術開発に関して、関連分野と連携して行うことは重要かもしれないが単独開催については検討の余地がある(川幡)
- 2013 年以降の「ちきゅう」の運用としては Moho が大きな目標となる。Petrology という枠組みではなく、総合科学としてワークショップを組むことを検討してほしい(巽)
- 古環境としては、新しい時代を対象に行われている高解像度での解析手法を、より古い時代に適用していくというのはいいかもしれない(川幡)
- IODP ではまだ Deep Biosphere をテーマとした掘削は行われていない。最初の ISP を書いた頃に比べると、テクニクが発展しているため、次の ISP では少し変わる可能性はある(山本)
- 日本で Geohazard といえば地震と津波がキーワードになる。これまでの Seismogenic の続きで深く掘るなどではなく、これまでとは方向性を変え、被害の軽減まで考えるようなテーマまで踏み込むことも考えた方がよい。それは Science ではないからどうだというような議論でもよい。日本では地震に関する大きなプロジェクトもいくつかあるので、そういったプロジェクトとうまくリンクして Hazard Mitigation の方向に持っていくのも選択肢としては考えておいたほうがよい(小平)
- Geohazard としては海底地すべりなどが面白い。必ずしも深く掘る必要はなく、地震に伴って海底地すべりが起こり、地形が変化することによって、地震の規模などがわかる。そういったマップを描く場合は浅い掘削で面的にカバーすることで達成できる(山田)
- 海底カルデラの進化など、Drilling だけで完結する計画ではなく、学際的なテーマの一部を IODP として行う様なサイエンスも必要と思う(巽)
- WS のメンバーは 100% 選出せず、IODP の外にいる研究者を取り込めるように枠を開けておくのがよい(川幡)
- 参加者には旅費を出す代わりに宿題として、シングルスペースで A4 用紙 2 ページくらいを書いてきてもらう。プロポーザルに似たものでも良いレビューでも良い。世話人がそれを冊子にまとめる。各ワークショップ 1 回で、世話人が集まるワークショップを各ワークショップの後に 1 回開催するのがよい。時期は各世話人がいつにするか決める。次の会議の時に議論を行う。今後、分野を決めてから、IODP としてこういう Workshop を行うので、世話人を募集するという案内を流す(川幡)
- 議論の途中、中・長期的(2013 年以降)戦略について、継続的に情報収集をし、対応するポジション(シンクタンク)が必要であることが議論された。

9. J-DESC コアスクール関連検討事項

- コアスクール保険[資料 7]
資料 7 に基づき、コアスクール保険について事務局より説明がなされた
 - 少人数(20 名未満)のコースではイベント保険をかけることができない
 - 以下の点が承認された
 - 参加者と J-DESC から依頼している講師に、J-DESC 負担(コアスクールの経費)で国内旅行傷害保険を掛ける
 - 所属機関の仕事となっている講師(J-DESC から出張依頼をしない講師)には保険は掛けない
 - 賠償責任保険(1,000 円程度)についてもコアスクールの経費で掛ける
 - スクール開催日のみを保障期間として保険を掛ける
 - 安全に関しての文書について微化石コース(秋田大学)がモデルとなるよう、雛形をつくる
- ちきゅうでのコアスクール開催 [資料 8-1] [資料 8-2]
資料 8-1 に基づき、標記の件について CDEX 川村氏より説明がなされた。
 - CDEX 主催で「ちきゅう」を活用したイベントを行う(コアスクール: 大学生以上の若手研究者、研究体験コース: 高校生以上の一般参加者)

- 開催日は9月26日～28日(学生は2泊3日、一般は27日から1泊2日)
- コアスクールの内容は core フローの理解など、一般参加者はその風景を見学、可能であれば一部体験する
- 本件について、下記の点が承認された
 - CDEX が行う「ちきゅう」活用イベントに J-DESC として協力する
 - J-DESC 会員機関からの参加者には、通常のコアスクールと同様、一人1万円の補助を出す

10. 秋の南海掘削シンポジウム開催について [資料9]

資料8-2 および資料9に基づき、標記の件について CDEX 川村氏より説明がなされた

- 10月20日に東京経団連会館で南海掘削についてのシンポジウムを開催する
- これについて下記の点を条件として J-DESC が共催することが承認された
 - 今後の J-DESC の賛助会員獲得に向けて、1)ちきゅうを造船したことによる造船業界への波及効果、2)掘削技術、3)ちきゅうを用いた産学官の連携についての講演をそれぞれ企業の方にお問い合わせ

11. その他

・SPC 代理委員承認

- SPC の日程は 8/24-27 (24 日巡検)
- 松本委員の代理委員として北海道大学の西氏が承認された
- 徳永委員の代理委員として小平委員が推薦され、小平委員は承諾、承認された

・出張時の航空マイレージについて

公費により航空機に搭乗した際のマイレージ取得に関し、政府全体として自粛することとなったことから、委員としての出張の際にもマイレージ取得を自粛していただくよう、AESTO より執行部委員に要請があった。

・コアスクールの補助について

J-DESC 会員が増えたため、コアスクールの旅費補助の1コース 80,000 円という上限は撤廃することが承認された

・次回執行部会日程 等

8月1日(金)に JAMSTEC 東京事務所で開催(9月は休み)